

クリークの魅力！発信!!

この広報誌は、筑後川下流右岸農地防災事業所の若手職員が広報活動の一環として作成しています。詳細はこちら→



飛鳥時代 有明干拓が始められる

潮位変化に対応し排水する排水樋門が発達

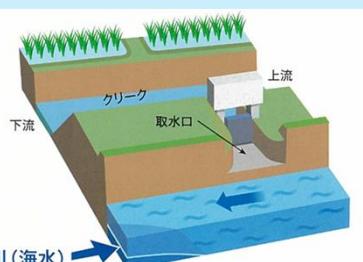
こ、これは…
淡水！！！



アオ取水

干潮時

淡水は比重が軽く、上層に浮かぶ



満潮時

海水は比重が重いため、底層に沈む

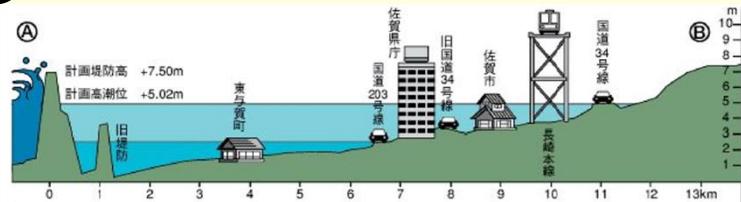


湛水被害・地盤沈下



飛鳥時代

極めて平坦な低平地帯のため、“降れば洪水、晴れれば渇水”と言われていた。



江戸時代

佐賀藩家老 成富兵庫茂安
佐賀平野における水利体系を確立

佐賀平野は人の手による干拓によって形成されたんじゃ



- ①クリークを相互に連絡
 - ②石井樋設置により多布施川を通じて城下に嘉瀬川の水を導水
 - ③淡水(アオ)を効率的に利用する
- 江戸時代初期に佐賀平野全体の治水・水利体系・クリークの原型を確立

1800～1900年代

機械かんがい
佐賀段階

昭和8～10年に米の反収全国1位を記録

戦後復興期

北山ダム、川上頭首工建設
新佐賀段階

- ・渇水の備えのためにクリークにめいっぱい貯留
→ 湛水被害
- ・地下水に依存していた
→ 地盤沈下

1976年

我が国最大級の
土地改良事業！

国営筑後川下流土地改良事業 スタート

Before



事業の効果

- ①クリークの再編成
- ②用水の安定した供給が可能に！
- ③排水性が向上し、洪水を軽減
- ④地盤沈下の防止

After



時が経ち...



湛水被害の発生

2012年

筑後川下流右岸農地防災事業 スタート

事業の目的

クリークの法面の保護・堆積土砂の除去
水害の広域的な防止、農業生産の安定



現在

